



令和7年度予算に向けて、かつてない陳情運動の展開を訴える水落敏栄本会会長  
=6月11日、九段会館テラスで



厚生労働省鳥井陽一審議官に要望書を手交する水落会長=6月13日、厚生労働省

1ブロック評議員の富澤善右衛門氏（山形県遺族会会長）が議長に選出され、議事に入った。初めに、評議員の一部改選が諮られ、新評議員に池内宜訓氏（長野県）、松浦友一氏（滋賀県）、林康雄氏（和歌山県）がそれぞれ選任された。そして、令和5年度計算書類等の

審議では、監事を代表して大石綏子氏が監査結果を報告し、承認された。

また、去る5月24日に開催された第31回理事会で審議し、了承された事項で、「戦後80年にむけた組織継承3カ年計画」の今後の進め方、英靈顕彰運動及び待遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、令和7年度政府予

算に対する要望事項、日本遺族会表彰規程の改定等が報告された。

特に、令和7年4月15日に最終償還を迎える「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」の継続増額、地元する要望事項は、10本の「平和の語り部」事業の

日本遺族会は6月11日、第21回評議員会を開催した。また、令和7年度政府予算に対する本会の要望事項のとりまとめが報告され、特別弔慰金の継続・増額等、本会の最重点要望事項が8月の概算要求に必ず反映されるよう集中的に陳情運動を展開することを確認した。

本会は、7月26日に支那開催する全国戦没者遺族代表者会議で、各省が財務省に提出する8月末の概算要求に本会の要望事項が必ず反映されるよう、関係省庁、地元選出の自由民主党国會議員に陳情する。

本会は、7月26日に支那開催する全国戦没者遺族代表者会議で、各省が財務省に提出する8月末の概算要求に本会の要望事項が必ず反映されるよう、関係省庁、地元選出の自由民主党国會議員に陳情する。

主な3つの活動の中から取り入れやすい型を選び推進する。内容についての相談は、本部推進委員およびブロックアドバイザーに助言を求めることが出来る。

まずは、語り部事業の主な3つの活動の中から取り入れやすい型を選び推進する。内容についての相談は、本部推進委員およびブロックアドバイザーに助言を求めることが出来る。

## 第21回評議員会

# 令和5年度決算を承認

## 令和7年度要望事項纏まる



令和6年7月15日  
第883号

一般財団法人日本遺族会  
〒107-0061 東京都千代田区  
九段南一丁目六番五号  
九段会館テラス四階  
電話 03-3261-5521  
振替 00160-6-25389  
編集発行人 盛川英治  
毎月1回15円(税込)  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は國の礎となられた英靈顯彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与すること目的とする。

平和の語り部本部推進委員会（以後、推進委員会）の最重要議題は、語り部の意義と、今後目指す方向性を確認し、指針を審議する事であった。内容を前号に続きお伝えする。

また、追悼式出席の学生等に参加を促し式前後の時間を利用し、座談会（対話型）や車座になつて戦中・戦後の話をしながら学生と鶴を折る。それが提案された。

さらに、高知県遺族会花台に供える（体験型）折鶴を献花のよう献げられる（体験型）ことが提案された。

次世代青年部からは戦争を見が多く聞かれた。また、県の取組が紹介された。

先進県から学校現場の理解を得るのに10年以上を要した。同事業を拡充して、沖縄県の方々を含め約300人が満市ひめゆりの塔前から摩文仁の平和祈念公園までの4キロを当時、梅雨末期の中、戦火を避けるため、南へと逃れた方々の思いを胸に平和を願い行進した。この慰靈行進も今年度63回を数える（この行事に本土から初めて参加したのが、昭和38年の第2回目からになる。翌年の昭和39年6月22日には、琉球政府が定めた「慰靈の日」（琉球政府は昭和36年、6月22日を慰靈の日と定めたが、その4年後、昭和40年、現在の6月23日を慰靈の日と改める）に、当時の青年部一行199人が沖縄の遺族ら2000人と一緒に那覇市内から摩文仁台上まで24キロの道のりを行進。摩文仁台上に到着した一行は、琉球政府主催の第一回「沖縄戦戦没者追悼式」に参列し、沖縄戦で亡くなつた英靈の冥福を祈つた。と、本紙縮刷版に記載がある（来年は戦後80年の節目の年に、先人が歩んだ道のりを歩み、平和への強い決意を示して欲しい。）

声

6月23日は沖縄戦における組織的戦闘が終わった日とされ、その日が沖縄県における「慰靈の日」と定められ、県内は慰靈の一日となる。その一つに、本会から41人が参加が主催する「平和祈願慰靈大行進」がある。今年も、本会から41人が参加し、沖縄県の方々を含め約300人が満市ひめゆりの塔前から摩文仁の平和祈念公園までの4キロを当時、梅雨末期の中、戦火を避けるため、南へと逃れた方々の思いを胸に平和を願い行進した。

参加者からは、活動実績を示す書籍等により自己紹介される。また、追悼式出席の学生等に参加を促し式前後の時間を利用し、座談会（対話型）として、語り部事業の広報をする。

部事業の広報をする。

も、本会から41人が参加し、沖縄県の方々を含め約300人が満市ひめゆりの塔前から摩文仁の平和祈念公園までの4キロを当時、梅雨末期の中、戦火を避けるため、南へと逃れた方々の思いを胸に平和を願い行進した。

参加者からは、活動実績を示す書籍等により自己紹介される。また、追悼式出席の学生等に参加を促し式前後の時間を利用し、座談会（対話型）として、語り部事業の広報をする。

</



炎天下の中、遺児、孫、ひ孫世代が一緒に平和祈念公園まで歩いた行進団=6月23日、糸満市摩文仁で

79年前の沖縄戦では、住民を巻き込んだ激しい地上戦で、県民を含む20万人以上が犠牲となつた。沖縄県では、旧日本軍の組織的な戦闘が終わつたとされる6月23日を「慰霊の日」と定めている。

日本遺族会は、この「慰霊の日」に沖縄県遺族連合会と共に、昭和37年から平和祈願慰靈大行進を開催している(コロナ禍で中止となつた3年間を除く)。今年は、全国から戦没者の孫、ひ孫世代13人を含む41人が参加

午前九時十五分過ぎ、

がひめゆりの塔から摩文仁へと行進した。

## 終戦79年「慰靈の日」

# 沖縄平和祈願慰靈大行進 孫、ひ孫世代13人が参加

沖縄は6月23日、20万余の尊い命が失われた地上戦が終結して今年で79日の「慰靈の日」を迎えた。県内各地で戦没者の冥福を祈る慰靈事業が執り行われる中、昨年に続き今年も第63回沖縄平和祈願慰靈大行進を開催。参加者は戦没者の御靈を慰め、命の大切さと平和への祈りを込め、ひめゆりの塔から摩文仁へと行進した。

79年前の沖縄戦では、

した。

県内外から約300人

がひめゆりの塔に参集し、

出発式を開会し、沖縄戦の犠牲者の冥福を祈り黙

祷を捧げた。我部政寿沖

縄県遺族連合会会長の挨

拶に続き、水落敏栄本会

会長が「私達のような遺

族を出してはならない、

平和への願いを新たに世

界へと発信し、恒久平和

が次世代へと語り継がれ

る日となるよう皆さん頑

張りましょう」と参加者

へ呼びかけた。

午前九時十五分過ぎ、

がひめゆりの塔から摩文仁へと行進した。

した。

水落会長、古賀誠本会名

誉顧問らを先頭に、团旗

を掲げた行進団一行は、

戦没された御靈に思いを

馳せ、「平和への祈り」

を込めて、ひめゆりの塔

から摩文仁を目指す

とした。

10人が团旗を持って追悼

式会場に入場した。

追悼式は、沖縄県副知

事の開式の辞、県議長

の式辞に続き、正午に1

分間の黙禱を捧げて始ま

り、はじめに我部沖縄県

遺族連合会会長が追悼の

式辞に続き、正午に1

分間の黙禱を捧げて始ま

り、はじめに我部沖縄県

遺族連合会会長が追

## 令和6年度・戦没者遺児による慰靈友好親善事業・実施計画概要

実施地域	実施時期		募集人員	申込締切
	主な訪問	予定地		
1 カザフスタン・ウズベキスタン共和国	令和6年10月3日(木)~10月10日(木)	7泊8日	40人	令和6年8月2日
	・A班=アルマティ、カラガンダ、アスタナ ・B班=タシケント、ブハラ、コーカンド、アングレン			
2 マリアナ諸島	令和6年10月4日(金)~10月10日(木)	6泊7日	40人	令和6年8月5日
	・A班=グアム島、サイパン島 ・B班=サイパン島、テニアン島			
3 東部ニューギニア	令和6年10月18日(金)~10月25日(金)	7泊8日	42人	令和6年8月19日
	・A班=マダン、ウエワク、ボイキン、ブーツ ・B班=ラエ、サラモア、ウエワク			
4 ピスマーク諸島	令和6年10月18日(金)~10月25日(金)	7泊8日	40人	令和6年8月19日
	・A班=マヌス島、ニューブリテン島(ラバウル) ・B班=ブカ島、ブーゲンビル島(ヌマヌマ)、ニューブリテン島(ラバウル)			
5 インド	令和6年10月30日(水)~11月5日(火)	6泊7日	30人	令和6年8月9日
	・A班=インバール ・B班=コビマ			
6 フィリピン(1次)	令和6年11月8日(金)~11月15日(金)	7泊8日	120人	令和6年9月9日
	・A班=マニラ及び東方山地 ・B班=クラーク、マニラ南方(リバ、ルセナ) ・C班=ルソン島北部(バギオ、クラーク) ・D班=ルソン島北部(バレテ岬、ソラノ)、キャンガン、オリオン岬 ・E班=パナイ島(イロイロ)、ミンダナオ島(ダバオ) ・F班=セブ島、レイテ島(タクロバン、ブラウエン、リモン岬、ビリアバ、カンギボット山、オルモック)			
7 ソロモン諸島	令和6年11月24日(日)~12月1日(日)	7泊8日	40人	令和6年9月24日
	・A班=ガダルカナル島、ソラギ島 ・B班=ニュージョージア島(ムンダ)			
8 台湾・パシー海峡	令和7年1月17日(金)~1月23日(木)	6泊7日	40人	令和6年11月15日
	・A班=台北、台中、高雄、墾丁 ・B班=台北、花蓮、台東、墾丁			
9 西部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月3日(月)~2月12日(水)	9泊10日	36人	令和6年12月3日
	・A班=ジャヤプラ(旧ホーランジャヤ)、ゲニム、ビアク島 ・B班=マノクリワリ、ソロン、ビアク島			
10 東部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月14日(金)~2月21日(金)	7泊8日	36人	令和6年12月13日
	・A班=マダン、ウエワク、ボイキン、ブーツ ・B班=ボボンデック、ギルワ、ウエワク			
11 タイ(特定地域)	令和7年2月20日(木)~2月27日(木)	7泊8日	36人	令和6年12月20日
	・A班=バンコク、カンチャナブリ ・B班=チェンマイ、アンボパイ、メーホーソン			
12 ギルバート諸島	令和7年2月28日(金)~3月8日(土)	8泊9日	20人	令和6年12月25日
	・タラワ			
13 マーシャル諸島	令和7年3月1日(土)~3月9日(日)	8泊9日	20人	令和6年11月1日
	・クエゼリン、マジュロ			
14 フィリピン(2次)	令和7年3月11日(火)~3月18日(火)	7泊8日	120人	令和7年1月10日
	・A班=マニラ及び東方山地 ・B班=クラーク、マニラ南方(リバ、ルセナ) ・C班=ルソン島北部(バギオ、クラーク) ・D班=ルソン島北部(バレテ岬、ソラノ)、オリオン岬、キャンガン、アパリ ・E班=ネグロス島(バコロド)、ミンダナオ島(ダバオ) ・F班=セブ島、レイテ島(タクロバン、ブラウエン、リモン岬、ビリアバ、カンギボット山、オルモック)			
15 中 国	令和7年3月21日(金)~3月29日(土)	8泊9日	80人	令和7年1月20日
	・A班=北京、鄭州、太原 ・B班=上海、南京、武漢 ・C班=上海、武漢、岳陽、長沙 ・D班=龍陵、騰越、拉孟			

多くの遺児に、青年部と共に参加願いたい。  
募集要項は次の通り。

多くの遺児に、青年部と共に参加願いたい。  
募集要項は次の通り。

東京等の集合場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。  
また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用

は、個人負担となる。  
▼参加資格 戦没者の

は、個人負担となる。  
▼申込方法 在住する

は、相手国や交通機関等

各都道府県遺族会事務局へ。なお、申込多数の場合は選考となる。

各都道府県遺族会事務局による影響で7月初旬に予定されていた遺骨収集派遣(第1次)は中止となつた。

注申込締切日は、マ

11月1日で、インド地

域は8月9日に変更となつたのでご注意願いたい。

# 亡き父の足跡を辿る旅 事業終了迫る参加者募集

慰靈友好  
親善事業

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰靈友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集している。本事業が終了する令和7年度には、洋上慰靈による慰靈友好親善事業を記念し国に要望していは、令和6年度の参加者を募集する。

本事業は令和7年度に終了することとし、終戦80年及び事業実施35周年を記念し国に要望していは、令和6年度で最後の洋上慰靈の実施が実現した場合は、令和7年度

本事業は令和7年度には洋上慰靈とフィリピン地域のみを実施する予定なる。

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰靈友好親善事業」では、

日本遺族会が厚生

「平和の語り部」  
組織継承

# 語り部育成研修会実施

## 埼玉県、岩手県で

日本遺族会が組織継承の具体策として取り組んでいる「戦後80年に向けた組織継承3ヵ年計画」の柱の一つである「平和の語り部」事業の研修会が埼玉県、岩手県の各支部で実施された。研修会では、具体的な語り部活動の方法が各地の実例を交え提案され、出席者は今後の進め方、課題等について積極的に意見を交わした。

### 埼玉県

6月15日、埼玉県遺族連合会青年部は、靖国神社参拝にあわせ九段会館テラス日本遺族会会議室で語り部の会を開催した。

八王子市の小学校で長年にわたり語り部講話活動に尽力している東京都連合会青年部は、靖国神社参拝にあわせ九段会館会長を講師に招き、小学校で行われている講話が

披露された。

内容は、設計事務所を営んでいた父が、戦地に赴く前に、残された家族が困らないようにしてい

た準備が、昭和20年8月

2日の八王子空襲により家ごと燃えてしまったこと。

その大火の中を、幼児の自身は祖母に背負われ、一緒に逃げた母が弟

を負ふりながら命からがら守った父の手紙が読み上げられ涙を誘つた。

長年の活動の中で、子供たちが飽きずに聴講する工夫として、戦争の被害を想像しやすいように冒頭、八王子空襲のビデオを視聴し、その後、児が10分ずつ体験を紹介

と披露した。

本年3月、開館から25周年を迎えた昭和館では、通年にわたり、各種企画・イベントを実施しており、7月から開館25周年を記念した特別企画展、写真展がそれぞれ開催される。写真展は通常2回開催するところを記念行事として、3回開催し、次回は11月の開催を予定している。

7月6日から10月27日まで「写真家たちがみつけた戦前・戦中」を2階ひろばで開催する。昭和

富田喜代志副会長(東京都)は、「記憶を持つ遺族と一緒に活動しよう。国会議員には、福居・小林両副会長も同席した。(福居氏は、本部プロックアドバイザーに就任)小学生から遺児までの幅広い世代が、語り部事業の意義を

理解した。

青年部長として出席し

た中野英幸衆議院議員

は、「記憶を持つ遺族と

とも、事業の拡充を

目指し、努力する」と挨拶した。なお、同研修会には、福居・小林両副会長も同席した。(福居氏は、本部プロックアドバイザーに就任)小学生から遺児までの幅広い世代が、語り部事業の意義を理解した。

青年部長として出席し

た中野英幸衆議院議員

は、「記憶を持つ遺族と一緒に活動しよう。国会議員には、福居・小林両副会長も同席した。(福居氏は、本部プロックアドバイザーに就任)小学生から遺児までの幅広い世代が、語り部事業の意義を理解した。

青年部長として出席し